

# 高校の教室に新聞を

## 八学光星「天地人」使い感想文

八戸市の八戸学院光星高校（小野崎龍一校長）では、各クラスに新聞を配置し、記事の切り抜きを授業に活用した。合間や休み時間に読むなど、自由に読んでもらう環境づくりに取り組んでいる。

### 情報の確かさ信頼できる



▽3年・江刺家菜耶さん（18） ネットは正しい情報を選択する必要がありませんが、新聞は情報の確かさと紙としての記録性が優れていると思います。公認心理師の夢に向かい、これからも新聞を役立てていきたいです。



東奥日報の切り抜きを授業に活用している八戸学院光星高校特別進学コースの2年生たち

3年生の川田美咲さん（18）は就職活動に新聞を生かしている。「面接とかあるので、なるべく一通り記事を読むようにしている。テレビやスマホより地域の方がよく分かる。米国の黒人への警官発砲事件は関心を持って読んだ」と地域や世界に目を向ける。

硬式野球部主将で2年生の吉川真一さん（17）は、最初にスポーツ面を開くという。「やはり野球の記事が一番気になる。先輩の（プロ野球巨人の）坂本勇人選手の2千安打達成は目が離せず毎朝、新聞を楽しみにしていた」と笑顔を見せた。

特別進学コースの2年生は、記事を切り抜き、書かれている内容から問題点を洗い出し、解決方法などを自ら考えてプリントに書き込む取り組みを続けている。本紙コラム「天地人」を使った感想文づくりに励んでいる。

1年生も新聞を活用する。福村由衣さん（16）は「普段使わない言葉や単語を覚えることができる」と話す。普通科科長の山岸徳貴教諭は「生徒たちは新聞からいろいろな知識、情報に触れることで、自分の可能性を広げてほしい」とメールを送っている。

（鎌田浩伸）